

JRR-3 の必要性を十分に議論した上で、物性研、JAEA 研究炉部、東北大が協力的にワーキンググループを作る必要があるとの指摘がなされた。三軸分光器の性能向上が見込めることから、JRR-3 の積極的利用のための将来計画ワーキンググループを作るべき、との指摘がなされた。また、現状に即した課題申請、実験受け入れ態勢、共同利用体制の見直しも必要であろうとの指摘もなされた。共同利用のあり方を見直しについては、人的資源の不足を補うために外部の協力が不可欠であること、JAEA と物性研の組織の壁を取り除くことを検討すべきである、などの意見が出された。

最後の総括では、KEK 物質構造研究所所長の山田和芳氏から、パルス中性子と定常中性子の相補利用により研究成果の最大化サイクルを回すことが重要である、とのコメ

ントがなされた。J-PARC センターMLF ディビジョン長の金谷利治氏からは、J-PARC と JRR-3 の間では試料環境、試料、人的交流などの流動性を持たせることが大切である、とのコメントがなされた。

参加者数は1日目が64名、2日目が49名であった。国内の主だった三軸分光器研究者、JRR-3 と関連の深い施設・分野の研究者による活発な議論が行われ、三軸分光器の重要性が再確認された。また JRR-3 将来計画のワーキンググループの策定が提案された。

参加者の方々には、連休と重なる日程であったにも拘わらず多数の方々にご出席いただいたことに、厚くお礼申し上げる。最後に、この研究会の運営に携わった中性子科学研究施設の事務・技術補佐員、学生、スタッフにもお礼を申し上げる。



プログラム

10月7日

13:00 施設長挨拶 柴山 充弘

セッション1 装置の高度化、装置担当者からの研究提案 座長 藤田

13:05 益田 隆嗣 東大物性研 「物性研三軸分光器の今後の方向性」

13:30 佐藤 卓 東北大 「原子炉中性子源における非弾性散乱研究の最近の展開」

13:55 金子 耕士 JAEA 「原子力機構三軸分光器群の展望と試料環境」

セッション2 利用者からの装置に対する研究提案 (1)

14:20 有馬 孝尚 東大新領域 「偏極非弾性散乱の意義：電気マグノンを例に」

14:50 木村 健太 大阪大 「特異な結晶構造を持つ磁性体の開拓と新奇量子磁性・電気磁気特性の探索」

休憩 15:15-15:25

セッション2 利用者からの装置に対する研究提案 (2) 座長 益田

15:25 李 哲虎 産総研 「鉄系超伝導体のスピン揺動」



